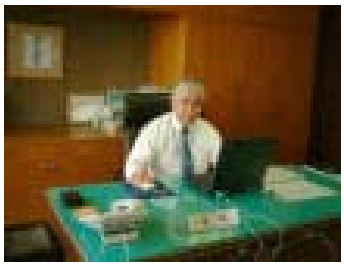
コストフリーエキスパート（CFE）

期待されるミッション遂行と実行予算制限の狭間で、IAEAも通常予算とは別に特別予算枠等加盟国の支援を受けて外来の職員（コストフリーエキスパートCFEと呼ばれている）を受け入れている。送る側には国際貢献への関与、情報収集や国際要員養成といったインセンティブがある。IAEA全体としては専門職正規職員の半数近くに達するようだからかなりのワークフォースである。実務上は正規職員と本質的な差別なく勤務している。日本は相当数の外来職員を派遣しており、この面での貢献は無視できない。本サイト訪問者の中にはこの可能性を探る人もあり得るだろう。実務に慣れ、能力を示して正規職員への道をとる人もいる。最近、邦人職員の間にもこの例が増えてきている。CFEに関連する幾つかの情報を提供する。



コストフリーエキスパート（CFE）には、IAEAの受け入れ方で大きく分けて二つの型がある。標準的には、給与その他の必要経費を親元がIAEAに納付するものでIAEAとは実質的な雇用契約を結ぶ。他は親元から直接本人に支払うものでIAEAとは「特別サービス契約（SSA）」と称する一種のコンサルタント契約を結ぶ。勤務条件や労働環境で両者の差は殆どない。機微情報へのアクセスが伴う保障措置関係はもちろん全体的にもIAEAとしては前者に限定する方針と聞いているので、ここでは前者の型を想定した情報を中心とする。

CFEの採否は通常予算外で決まるので、「公募空席情報（Vacancy　Notice）」サイトには現れない。個別の業務に関して関連加盟国（Potential　Donor）宛に出される「特別予算支援要請」の公文書や担当者レベルで行われる個別接触での要請に対して、派遣側との利害が一致した時点で派遣側から公式に派遣の意志表示がなされて正式の手続きが始まる。

2002年より、CFEについても事前に採用面接を行うことがルール化された。採否を覆すような面接ではないが、本人の職歴等が応募ポストに適切であるかどうか等が審査される。場合によっては応募とは違うセクションやユニットあるいは業務を勧められることもある。

本人が作成した履歴書がIAEAに届くと、おり返し面接の実施について連絡がくる。同じ会社からの前任者がいる場合には便宜上その人に連絡が来る例が普通である。その前任者ないしは、応募しているポジションのユニットヘッドに各面接者（ユニットヘッド、セクションヘッド、ディレクターが一般的）の都合を勘案の上、面接日程を調整する。通常は1日か2日で十分である。日程が決った時点で航空機の予約、ホテルの手配等を本人が行う。CFEの場合、旅費、滞在費は全て派遣元が負担する。

面接当日は、正門守衛所（地下鉄駅に直結のゲート1）で入構許可書を発行してもらう必要がある。面接日を記したレター、パスポートが必要となるので忘れずに持参する。IAEAスタッフ（通常は前任者）に出迎えてもらうとスムーズに進む。

いままでの面接例では、①ユニットヘッド、②セクションヘッド、③ディレクター、④所属局事務次長、⑤日本政府代表部と行われている。いわゆる面接は②および③のみで、あとは顔合わせや報告の意味合いが強い。原子力安全局　原子力施設安全部　運転安全セクションの面接では、

1）IAEAに勤務することのモチベーションは何か。
2）IAEAに対してどのような貢献ができると考えているか。
3）IAEAに勤務している間にどのようなことを学びたいと考えているか。
4）今までの職歴でもっともやりがいのあったもの、一番やりたくなかったものは何か。
5）品質保証の仕事や運転安全に関連する業務を行ったことはあるか。
6）コンピュータはどの程度使えるか。

といった質問が共通のものとして出ている。当然のことながら、業務に関する質問はセクション毎に異なってくる。その他、最近の原子力のトピックスやIAEAの業務効率化について意見を求められることもある。CFE特有の質問は基本的にはない、と考えて良い。別項の「面接時の心構え」も参考にすると良い。

面接が終了すると、担当局から人事部宛でクリアランスが発行され、内部諸手続きの後、派遣元に向けたインボイス（日本政府経由）、当人宛の”Offer of the Appointment”が発行される。これらの書類を受け取ったら、できるだけ速やかに「受諾」の意志を書面で伝え、赴任時期の調整や着任のための具体的準備に入る。